

学生便覧 2026年度

経営情報学部 総合経営学科

B2026-2-1

目次

I 教育研究上の目的	2
II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	2
IV 授業科目について.....	3
V 授業科目の単位と認定.....	3
VI 卒業に必要な単位について.....	3
VII 進級条件及び各年次における標準的な修得単位	4
1. 進級条件.....	4
2. 各年次における標準的な修得単位	4
VIII 授業科目の配当年次と履修すべき単位数.....	6
1. 全学部共通基盤科目群.....	6
2. 外国語科目群.....	9
3. キャリア形成科目群.....	11
4. 専門基礎科目群，専門科目群 I，専門科目群 II（ゼミナール研究・実践），専門科目群 III（教職関連）	11

I 教育研究上の目的

経営情報学部は、経営学と情報学を中心とした総合的で多様な学問分野についての教育研究を通じて、グローバル化や情報通信技術の発展に対応し、企業や国際社会、地域社会の諸問題に対して主体的に取り組むことができる人材を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

経営情報学部総合経営学科は、所定の単位を修得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（経営情報）の学位を授与する。

1. 経営学と情報科学を中心とした専門的学問分野を学び、自ら問題解決に取り組める深い学識と専門的知識を体系的に身に付けている。
2. 経営学の様々な手法やデータサイエンス等の情報科学技術の修得によって、課題を可視化できる表現力、およびその解決方法や新たな価値を創造する力を身に付けている。
3. 外国人留学生との交流や海外留学・研修制度等を通じて、異文化に対する理解を深め、グローバルな視点に立って国内外で活躍できる資質・能力を身に付けている。
4. 実践型プログラムを通じて、企業や国際社会、地域社会の現場における課題を発見し、それを主体的に解決する力を身に付けている。
5. 社会人に求められる幅広い知識を修得し、それを活用できる資質・能力を身に付けている。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

経営情報学部総合経営学科では、教育研究上の目的及びディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル化や情報通信技術の発展に対応し、企業や国際社会、地域社会の諸問題に対して主体的に取り組むことができる人材を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

1. 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
2. 英語を中心に多言語を学び、グローバル化の進展する社会や企業で活用できる語学力と国際教養を身に付けるため、外国語科目群を設置する。
3. 大学で主体的に学修する意欲、社会で求められる倫理観、思考力・表現力・判断力などを用いて課題を発見・解決できる社会人基礎力、キャリア形成に資する能力を身に付けるため、キャリア形成支援・就職支援としてインターンシップやビジネスキャリア実践などで構成するキャリア形成科目群を設置する。
4. 経営学の専門分野に関する基礎知識を身に付けるため、経営、マーケティング、経済、会計、情報科学、スポーツマネジメント、スポーツ健康科学、環境などの多様で幅広い基礎的な科目で構成する専門基礎科目群を設置する。
5. 専門基礎科目群で培った知識を土台に、一人ひとりの学修目標や進路に係る知識・技能を深めるため、実務的かつ学際的な学びとしての専門性の高い経営、マーケティング、経済、会計、情報科学、スポーツマネジメント、スポーツ健康科学、環境などに係る専門的な科目で構成する専門科目群Ⅰを設置する。
6. 修得した知識・技能・態度などを統合し、様々な人々とともに目標に向けて協力する力や主体的・協働的に諸課題に取り組む能力、及びこれまで学修した知識・技能等を高めるため、ゼミナール・プロジェクト研究などで構成する専門科目群Ⅱを設置する。
7. 専門的学修に基づく授業力と指導力、マネジメント力を兼ね備えた保健体育科教員を育成するため、教職に関する科目で構成する専門科目群Ⅲを設置する。
8. アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーに示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技術や技法の修得を目的とする「実習」や「実技」を取り入れた授業形態を採用します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、主に専門科目群に実務家教員を配置します。さらに、合理的な授業人数の調整や ICT を活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV 授業科目について

経営情報学部 総合経営学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、外国語科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されている。

また、開講される科目ならびに履修方法については、オリエンテーション等を通じて指示する。原則として、コース（キャンパス）の変更はできない。

V 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学修評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、Fの評価は単位を認定しないものとする。なお、N・Hは単位振替により単位を認定したことを示す。成績の評価については、履修・試験・成績評価を参照すること。

VI 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系 列	学部・学科	経営情報学部 総合経営学科
	最低修得単位数	
全学部共通基盤科目群		15
外国語科目群		4 (外国人留学生・帰国生は8)
キャリア形成科目群		5 (外国人留学生・帰国生は3)
専門基礎科目群		14
専門科目群 I		28
専門科目群 II (ゼミ研究・実践)		8
上記の科目群より、それぞれの科目群で指定された最低修得単位数とは別に、卒業に必要な単位数を日本人学生は50単位以上、外国人留学生・帰国生は48単位以上修得すること。		50 (外国人留学生・帰国生は48)
合計		124

専門科目群Ⅲ（教職関連）は、＜総合経営コース：千葉東金キャンパス＞に所属していて教職課程に登録している者のみ履修することができ、修得単位は卒業要件単位数に含まれない。ただし、4年次に教育実習受講要件を満たす者は、各教科教育法の修得単位を卒業要件単位数に含むことができる。

※教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。

VII 進級条件及び各年次における標準的な修得単位

1. 進級条件

各年次で進級に必要な修得単位数は、次のとおりである。

(1) 1年次から2年次：

① ・日本人学生

1年次必修科目の経営情報基礎論A・B, デジタルアプリA, 情報セキュリティA, 経営学総論, データサイエンス I, アカデミック・スキルズ, ビジネスキャリア I, および外国語科目群の Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, のうち4単位 以上

・外国人留学生・帰国生

1年次必修科目の経営情報基礎論A・B, デジタルアプリA, 情報セキュリティA, 経営学総論, データサイエンス I, アカデミック・スキルズ, ビジネスキャリア I, および外国語科目群の日本語科目のうち4単位 以上

② 卒業要件単位数のうち16単位 以上

(2) 2年次から3年次：

① ・日本人学生

1, 2年次必修科目の経営情報基礎論A・B, デジタルアプリA, 情報セキュリティA, 経営学総論, データサイエンス I, アカデミック・スキルズ, ビジネスキャリア I・IIA・IIB, および外国語科目群の Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, のうち10単位 以上

・外国人留学生・帰国生

1, 2年次必修科目の経営情報基礎論A・B, デジタルアプリA, 情報セキュリティA, 経営学総論, データサイエンス I, アカデミック・スキルズ, ビジネスキャリア I・IIA・IIB, および外国語科目群の日本語科目のうち10単位 以上

② 卒業要件単位数のうち50単位 以上

※ただし、①の条件を満たし、卒業要件単位数のうち修得単位数が 40単位以上・49単位以下の者については、進級判定の対象となり、教授会で審議の結果、許可された学生のみ進級することができる。

(3) 3年次から4年次：

①卒業要件単位数のうち82単位 以上

②ゼミナールA・B・C・D・E のうち4単位 以上

2. 各年次における標準的な修得単位

各年次における授業科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。ただし、各クォーター（S1, S2, F1, F2）の履修登録単位数は16単位以下、各集中授業（SS, WS）は6単位以下とする。全学部共通基盤科目のオンデマンド型と同時双方向型のオンライン授業は、合わせて1クォーターで3科目6単位までを履修上限とする。また、年間の履修登録単位数は42単位以下とする。GPAが通算2.00以上の者には、アドバイザーに相談したうえで年間最大49単位まで履修することを認めることがある。各クォーターでGPA が0.75未満となった場合には、アドバイザーの履修指導を受けなければならない。

学年	科目群別必修科目等	単位数の目安
1年次	○全学部共通基盤科目群 ・必修科目 経営情報基礎論A, デジタルアプリA, 情報セキュリティA, データサイエンス I, アカデミック・スキルズ	21~29単位
	○外国語科目群 ・選択必修科目 <日本人学生> Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, のうち2科目 4単位 <外国人留学生・帰国生> 外国語科目群備考欄を参照	
	○キャリア形成科目群 ・必修科目 ビジネスキャリア I	1単位
2年次	○専門基礎科目群 ・必修科目 経営情報基礎論B, 経営学総論	10~20単位
	○全学部共通基盤科目群 ・選択必修科目	4~12単位
	○キャリア形成科目群 ・必修科目 ビジネスキャリア II A・II B	2~4単位
	○専門基礎科目群	8~11単位
3年次	○専門科目群 I	16~20単位
	○キャリア形成科目群	2~4単位
	○専門基礎科目群	2~4単位
	○専門科目群 II (ゼミナール研究・実践) ・必修科目 ゼミナールB ・選択必修科目 ゼミナールA・Eのうち1科目2単位	4~6単位
	○専門科目群 I	22~30単位
4年次	○専門科目群 II (ゼミナール研究・実践) ・必修科目 ゼミナールC・D	4単位
	○専門科目群 I	4~6単位

※上記の表は9月入学生に関して若干異なるので、オリエンテーション時に確認すること。

VIII 授業科目の配当年次と履修すべき単位数

1. 全学部共通基盤科目群

全学部の学生を対象として設置される科目である。各学部の専門の学びの基盤となる、文理の壁を越えた幅広い教養を身に付けることを目的とする。

【カテゴリ】

- (1) 大学での学びの基盤を固める—文献を調べる，論文を書く，プレゼンテーションをする，議論するための基礎を学ぶ
〔スタディ・スキルズ，外国語（日本語）など〕
- (2) 現象世界をつかむ—科学と技術の未来を切り拓く実験科学の知見，数理的思考を深める
〔生命科学，環境科学，統計学，データ分析の基礎，情報セキュリティ入門，人工知能，データサイエンス，デジタルアプリなど〕
- (3) デジタル社会を切り拓く—科学と技術の未来を支える数理的思考を深める
〔統計学，データ分析の基礎，情報セキュリティ入門，人工知能，データサイエンス，デジタルアプリなど〕
- (4) 現代社会の課題に挑戦する—学問の領域を超えて複眼的思考を身に付け，複雑な現代社会の課題に挑戦する
〔現代史入門，エリアスタディーズ，観光の現在と未来，国際日本学，スポーツ社会学，地域ボランティア論，地域プロジェクトなど〕
- (5) 歴史をひもとく—歴史を読み解く力により，現代社会の通念をうち破り，未来社会を切り拓く
〔日本の歴史，西洋史，アジア史，メディアの歴史（テレビ番組），科学史など〕
- (6) 社会の構造的変動をとらえる—現代社会が直面する複合的な課題を構造的に分析する力を養う
〔マーケティングの基礎，広告戦略論，社会学，社会調査，法律学，著作権，政治学入門，国際関係論，経済学入門など〕
- (7) 世界を創造する—文化，芸術，文学を全人的に体験して創造力を高める
〔美術史，演劇・舞台芸術論，日本の文学，文学のはじまり（古代ギリシア・ローマ文学），日本の伝統文化，異文化適応論，世界遺産のいまなど〕
- (8) 知の知を追究する—人間性の本質を探究し，新しい時代の理念，理想を追究する
〔哲学，倫理学，宗教学，文化人類学，考古学，教育学，心理学，言語学，ジェンダー論など〕
- (9) 心と身体の充実をはかる—トレーニング，チームプレー，ゲーム参加などを通して，豊かな人間性，社会性を育む
〔スポーツ科学，ダンスなど〕

科目群	カテゴリ	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
				必修	選択	自由		
全学部共通基盤科目群	大学での学びの基礎を固める	アカデミック・スキルズ	1	1			15単位	※ *1日(日本語開講)と *1英(英語開講)の科目は 同一科目につき，いずれ か1科目のみ単位修得を することができる。
		現象世界をつかむ	自然科学概論	1		2		
		生命現象の理解とその応用—生命科学	1		2			
		生物からみた環境の仕組み—生態学	1		2			
		食環境論	1		2			
		香りと環境	1		2			
		身体を理解	1		2			
		デジタル社会を切り拓く	デジタルアプリA	1	2			
		デジタルアプリB	1		2			
		情報セキュリティA	1	2				
		情報社会と情報倫理	1		2			
		人工知能論	1		2			
		データサイエンス I	1	2				
		データサイエンス II	1		2			
		モデル化とシミュレーション	2		2			
		プログラミングA	2		2			
		アルゴリズムA	2		2			
		情報システム論	2		2			
		統計学*1日	2		2			
		Statistics*1英	2		2			
	データ分析の基礎（解析）	1		2				
	データ分析の基礎（線形代数）	1		2				
	インターネット配信	1		2				

科目群	カテゴリ	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
				必修	選択	自由		
全学部共通基盤科目群	現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	1		2		15単位	
		ヘルスツーリズム	1		2			
		社会心理学	1		2			
		生活と文化	2		2			
		生涯スポーツ概論	1		2			
		スポーツ社会学	1		2			
		ボランティア論	1		2			
		コミュニケーションの基礎	1		2			
		域学共創プロジェクトA	1		2			
		域学共創プロジェクトB	1		2			
		域学共創プロジェクトC	1		2			
		域学共創プロジェクトD	1		2			
		域学共創プロジェクトE	1		2			
		域学共創プロジェクトF	1		2			
		域学共創プロジェクトG	1		2			
		域学共創プロジェクトH	1		2			
	域学共創プロジェクトI	1		2				
	域学共創プロジェクトJ	1		2				
	歴史をひもとく	史学概論	1		2			
		日本史を学ぶ	1		2			
		アジア史概論	1		2			
		現代史入門	1		2			
		房総の文化と歴史	1		2			
		映像メディア史	1		2			
		音楽史	1		2			
	社会の構造的変動をとらえる	政治学入門	1		2			
		経済学入門	1		2			
		社会と経営	1		2			
		社会と会計	1		2			
		マーケティング論	1		2			
		広告戦略論	1		2			
		社会学	1		2			
		社会調査	2		2			
法律学概論		1		2				
日本国憲法		1		2				
著作権		1		2				
社会福祉学A		1		2				
社会福祉学B		2		2				
経営情報基礎論A	1	2						

科目群	カテゴリ	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
				必修	選択	自由		
全学部共通基盤科目群	世界を創造する	世界遺産のいま	1		2		15単位	
		美学・芸術学	1		2			
		表象文化研究	1		2			
		世界の文学	1		2			
		演劇研究	1		2			
		古典芸能研究	1		2			
		文学を読む	1		2			
	知の知を追究する	教育学	1		2			
		心理学	1		2			
		基礎の数学	1		2			
		ジェンダー論	1		2			
		根拠への問いー哲学へのとびら	1		2			
		異文化適応論	1		2			
		宗教学概論	1		2			
	心と身体の充実を図る	倫理学概論	1		2			
		スポーツ科学A	1		1			
		スポーツ科学B	1		1			
		しゃべりのスキル Up I	1		2			
		Drug Action Science			2			
		症状に合わせた健康セルフケア			2			
		感染症とくすり			2			
ハーブ・サプリメント・漢方薬			2					

2. 外国語科目群

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
外国語科目群	Fundamentals of English I	1	2			○日本人学生 4単位	○日本人学生 Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, から4単位以上を修得すること。なお, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, の4科目は, 優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	Fundamentals of English II	1		2			
	Oral Fluency I	1	2			○外国人留学生・帰国生 8単位	○外国人留学生・帰国生 日本語Ⅰ・Ⅱ, 統合日本語Ⅰ・Ⅱ, 日本語アカデミック・ライティング, 日本語アカデミック・スピーキング, 社会と文化の日本語 A・B から8単位以上を修得すること。
	Oral Fluency II	1		2			
	TOEIC Preparation A	1		2			
	TOEIC Preparation B	1		2			
	TOEIC Preparation C	1		2			
	TOEIC Preparation D	1		2			
	English for Specific Purposes A	1		2			
	English for Specific Purposes B	1		2			
	English for Advanced Studies A	1		2			
	English for Advanced Studies B	1		2			
	Basic Writing Skills I	1		2			
	Intermediate Practical Discussion Skills I	1		2			
	Intermediate Reading Skills I	2		2			
	中国語Ⅰ	1		2			
	中国語Ⅱ	1		2			
	韓国語Ⅰ	1		2			
	韓国語Ⅱ	1		2			
	スペイン語Ⅰ	1		2			
	スペイン語Ⅱ	1		2			
	ドイツ語Ⅰ	1		2			
	ドイツ語Ⅱ	1		2			
	フランス語Ⅰ	1		2			
	フランス語Ⅱ	1		2			
	ハンガリー語Ⅰ	1		2			
	ハンガリー語Ⅱ	1		2			
ポーランド語Ⅰ	1		2				
ポーランド語Ⅱ	1		2				
チェコ語Ⅰ	1		2				
チェコ語Ⅱ	1		2				
日本語Ⅰ*	1		2		***の科目は指定された外国人留学生・帰国生のみ履修することができるが, 卒業単位には含まれない。		
日本語Ⅱ*	1		2				
日本語Ⅲ*	2		2				
統合日本語Ⅰ*	1		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
外国語科目群	統合日本語Ⅱ*	1		2		○日本人学生 4単位	○日本人学生 Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, から4単位以上を修得すること。なお, English for Specific Purposes A・B, English for Advanced Studies A・B, の4科目は, 優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。 ○外国人留学生・帰国生 日本語Ⅰ・Ⅱ, 統合日本語Ⅰ・Ⅱ, 日本語アカデミック・ライティング, 日本語アカデミック・スピーキング, 社会と文化の日本語A・B から8単位以上を修得すること。 *の科目は外国人留学生・帰国生のみ履修できる。 **の科目は指定された交換留学生・短期留学生のみ履修できる。 ***の科目は指定された外国人留学生・帰国生のみ履修することができるが, 卒業単位には含まれない。
	統合日本語Ⅲ*	2		2			
	日本語アカデミック・ライティング*	1		2		○外国人留学生・帰国生 8単位	
	日本語アカデミック・スピーキング*	1		2			
	社会と文化の日本語A*	1		2			
	社会と文化の日本語B*	1		2			
	ビジネス日本語Ⅰ*	3		2			
	ビジネス日本語Ⅱ*	3		2			
	キャリア日本語(就職)*	3		2			
	キャリア日本語(進学)*	3		2			
	専門日本語(福祉・介護)*	2		2			
	専門日本語(ホテル・観光)*	2		2			
	専門日本語(文学・評論)*	2		2			
	専門日本語(異文化コミュニケーション)*	2		2			
	Fundamentals of Japanese A**	1		4			
	Fundamentals of Japanese B**	1		4			
	Fundamentals of Japanese C**	1		4			
	Fundamentals of Japanese D**	1		4			
	Intermediate Japanese Skills A**	1		4			
	Intermediate Japanese Skills B**	1		4			
	JLPT Preparation **	1		2			
	日本語(言語知識)***	1			2		
日本語(読解・聴解)***	1			2			
日本語A***	1			2			
日本語B***	1			2			
日本語C***	1			2			
日本語D***	1			2			
日本語E***	1			2			

3. キャリア形成科目群

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
キャリア形成科目群	ビジネスキャリアⅠ	1	1			○日本人学生 5単位	○日本人学生 キャリア形成科目群のうち、必修科目を含み5単位以上を修得すること。
	ビジネスキャリアⅡA	2	1				
	ビジネスキャリアⅡB	2	1				
	ビジネスキャリア実践A	2		1			
	ビジネスキャリア実践B	2		1		○外国人留学生・帰国生 3単位	○外国人留学生・帰国生 キャリア形成科目群のうち、必修科目を含み3単位以上を修得すること。
	インターンシップ	2		2			
	海外ビジネス研修Ⅰ	1		2			
	海外ビジネス研修Ⅱ	1		2			
	海外ビジネス研修Ⅲ	1		2			

4. 専門基礎科目群, 専門科目群Ⅰ, 専門科目群Ⅱ (ゼミナール研究・実践), 専門科目群Ⅲ (教職関連)

本学部ではコース制を導入しており、＜総合経営コース：千葉東金キャンパス＞は3分野、＜グローバル経営情報コース：東京紀尾井町キャンパス＞は4領域に分かれ、それぞれの専門分野・領域となるゼミで研究を深めることになる。1年次の基礎教育とアカデミック・スキルズ、ビジネスキャリアⅠ、2年次のビジネスキャリアⅡA・ⅡBと段階的に学び、語学科目、情報系科目、専門基礎科目群、専門科目群の科目を計画的に履修し、ビジネスツールと国際教養を身に付けて専門分野・領域のゼミナールA・B・C・D・Eに進むことになる。

各学生は最終的には自身が選択したゼミや分野・領域に属する科目を履修して自身の専門性の確立を図ることとなるが、一方で各分野・領域が設けた推奨科目も卒業までに可能な限り履修し、学士（経営情報）を得るにふさわしい幅広い経営に関連する知識を身に付けるため、専門性の深さと広さの両立を企図した学修計画を立てることが求められる。

＜総合経営コース：千葉東金キャンパス＞

企業の様々な分野で活躍できる人材、地域や公共分野で活躍できる人材、保健体育における教育人材、スポーツ自体やスポーツビジネスの分野で活躍できる人材になるための準備を行う。そのために各分野で体系的に学んでいく。また、様々なプロジェクトを通じた実践的・体験的な学修により、グローバル化とデジタル化の加速する社会に適応し、地域の活性化に貢献する人材を育成する。

(1) グローバルビジネス分野

この分野では、企業経営の基本となるマーケティング、簿記、会計、情報科学技術分野など経営分野全般を広く学び、地域貢献活動や地域経済活性化を意識しながらマネジメント力と実践力を身に付けていく。また、海外からの留学生たちと共にキャンパスで学んでいくことを通して、異文化コミュニケーション力の実践力を高め、国内外を問わずに活躍できる人材を目指す。特に日本における国際航空物流の一大拠点となる成田国際空港に近い千葉東金キャンパスにおいて、航空ビジネス、および航空物流も学びながら国際ビジネスを学び、国境や民族、宗教、文化を問わずに自ら判断し行動できる人材の育成を目指す。

(2) スポーツマネジメント分野

この分野では、スポーツ・健康科学、トレーニング理論、スポーツ経営学を幅広く学び、スポーツの実施や指導、健康の維持・増進、生涯スポーツ社会の実現に関する知識や方法を身に付け、それらを企業や地域、多様な人々の生活に応用し、マネジメントできる人材を目指す。また、1年次より教職関連科目を修得する履修計画を立てることによって、保健体育の専門的知識だけでなく、経営や情報分野の知識や理論を活かすことのできる保健体育教員の育成を目指す。

(3) 地域公共マネジメント分野

この分野では、公務員試験合格を目指しながら、経営、経済、法律、環境などを幅広く学び、地域の課題を解決でき、地域社会に貢献できる力を身に付ける。そして、多様な人々と協働してより良い公共サービスや地域創生を実現できる人材の育成を目指す。

(1)～(3)の各分野に分かれて学習するうえで、修得しておくことが望ましい科目を分野推奨科目としている。必修科目と併せて履修計画を立ててもらいたい。科目の詳細についてはオリエンテーションや「アカデミック・スキルズ」の授業で説明する。以下に、分野推奨科目の一部を紹介する。

(1) グローバルビジネス分野	(2) スポーツマネジメント分野	(3) 地域公共マネジメント分野
マーケティング論 マーケティングリサーチ 会計学 国際経営論 英語 第二外国語 など	生涯スポーツ概論 スポーツ社会学 スポーツ科学A スポーツ科学B 心と身体の科学 健康管理概論 など	日本国憲法 経済原論A 経済原論B 政治学入門 など

<グローバル経営情報コース：東京紀尾井町キャンパス>

経営学や会計学、流通・マーケティング、消費者行動分析に加え、企業情報システムや情報ネットワーク、メディア情報、英語や諸外国の語学や国際ビジネスなどの科目を設置している。日本の政治経済の中心地である東京都千代田区で、経営、会計、情報マネジメント、グローバル・コミュニケーションの4つの領域を広く学ぶ。これからの国際社会に不可欠な教養・知識を身に付けるとともに、百年ともいわれる人生を爽やかに過ごすために必要な社会人基礎力を鍛錬する。

(4) 経営領域

この領域では、現代の経営を理解し、企業などの組織の経営を担うことのできる人材を育成する。経営学、経済学、マーケティング、ロジスティクスなどについて実践的かつ専門的な知識を学び、グローバルな発想の下、具体的な諸問題を解決することができるビジネスパーソン、ビジネスリーダーの育成を目指す。

(5) 会計領域

会計はビジネスの共通言語と言われ、ファイナンスは経済社会の動きを理解するうえで必要不可欠な知識である。これらの修得は現代の社会から強く要請されている「経済社会の行動原理に対する理解と議論する力」の獲得に大きく資するものである。この領域では、まず企業の企画・財務・経理の知識と国際的感覚を有する会計ゼネラリストの育成を目指し、さらに公認会計士や税理士などの会計スペシャリストの育成をも視野に入れ、会計・財務・ファイナンスの基礎から応用まで、幅広い知識を保有する人材の育成を目指す。

(6) 情報マネジメント領域

この領域では、SNSなどの情報通信技術（ICT）を活用して、企業の情報戦略を担うことができる能力を養う。企業経営の根幹をなす情報セキュリティや、ビッグデータの活用法、AIを援用した様々なサービスについて、その原理と実践について深く学び、専門家として活躍することができる人材の育成を目指す。

(7) グローバル・コミュニケーション領域

この領域では、異文化コミュニケーションの基礎知識を修得する。異なる文化背景を持つ人間と協働するための言語や非言語、コミュニケーション能力を身に付けるだけでなく、情報化社会に急増したロボット・AIを介したコミュニケーション能力や激変時代に対応できる非対面コミュニケーション力を養い、さらに多文化環境でのリーダーシップ、動機付け、意思決定、チームワークなどの知識も学修していく。これらを通して、グローバル的な視野を備え、国際社会で柔軟に対応できる人材の育成を目指す。

(4)～(7)の各領域に分かれて学習するうえで、修得しておくことが望ましい科目を領域推奨科目としている。必修科目と併せて履修計画を立ててもらいたい。科目の詳細についてはオリエンテーションや「アカデミック・スキルズ」の授業で説明する。以下に、領域推奨科目の一部を紹介する。

(4) 経営領域	(5) 会計領域	(6) 情報マネジメント領域	(7) グローバル・コミュニケーション領域
マーケティング論 ロジスティクス概論 消費生活と行政	初級簿記 中級簿記 会計学	情報ネットワーク論 情報システム論 情報セキュリティB	グローバル・コミュニケーション総論 異文化コミュニケーション論 異文化組織マネジメント

専門基礎科目群

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門基礎科目群	経営学総論	1	2			14単位	専門基礎科目群のうち、14単位以上を修得すること。 ※ *2日(日本語開講)と*2英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。 ※ *3日(日本語開講)と*3英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。
	ミクロ経済学の基礎*2日	1		2			
	Introduction to Microeconomics*2英	1		2			
	マクロ経済学の基礎*3日	1		2			
	Introduction to Macroeconomics*3英	1		2			
	経済原論A	1		2			
	経済原論B	1		2			
	消費生活と行政	1		2			
	流通論	2		2			
	マーケティングリサーチ	1		2			
	デジタルマーケティング	2		2			
	ロジスティクス概論	1		2			
	初級簿記	1		2			
	中級簿記	1		2			
	会計学	1		2			
	ファイナンスの基礎 I	1		2			
	ファイナンスの基礎 II	1		2			
	経営情報基礎論B	1	2				
	情報化戦略とマネジメントA	1		2			
	情報学演習A	1		2			
	情報学演習B	1		2			
	情報ネットワーク論	2		2			
	グローバル・コミュニケーション総論	1		2			
	アロマセラピー I	2		2			
	アロマセラピー II	2		1			
	スポーツ科学C	2		1			
スポーツ科学D	2		1				
心と身体の科学	2		2				
健康管理概論	2		2				
Data Science	2		2				

専門科目群 I

科目群	科目名	配当 年次	単位数			最低修得 単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	ゲーム理論	2		2		28単位	<p>専門科目群 I のうち、28 単位以上を修得すること。</p> <p>※ *4日(日本語開講)と *4英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。</p> <p>※ *5日(日本語開講)と *5英(英語開講)の科目は同一科目につき、いずれか1科目のみ単位修得をすることができる。</p> <p>*の科目(体づくり運動、器械運動、陸上競技、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、柔道、スキー、運動学)は、原則、教職課程(保健体育)に登録している者のみ履修できる。</p> <p>**の科目(ダンス、水泳)は、原則、教職課程(保健体育)に登録している者と健康運動実践指導者資格取得希望者のみ履修できる。</p> <p>*および**印の科目は、オリエンテーション期間に行われる教職課程説明会で示されるクラス分けに従い、履修登録すること。</p>
	経営戦略論	2		2			
	経営組織論	2		2			
	消費者行動論	3		2			
	国際マーケティング論*4日	2		2			
	International Marketing*4英	2		2			
	民法	2		2			
	商法	2		2			
	会社法	2		2			
	税法	3		2			
	財務諸表論	2		2			
	原価計算論 I	2		2			
	原価計算論 II	2		2			
	財務分析	2		2			
	ファイナンシャルプランニング論A	2		2			
	ファイナンシャルプランニング論B	2		2			
	コーポレートファイナンス	3		2			
	ビジネスデータ分析A	2		2			
	ビジネスデータ分析B	3		2			
	情報化戦略とマネジメントB	2		2			
	情報セキュリティB	2		2			
	アルゴリズムB	2		2			
	プログラミングB	2		2			
	ビッグデータとデータマイニング	3		2			
	異文化コミュニケーション論*5日	2		2			
	Theory of Cross-cultural Communication*5英	2		2			
	異文化組織マネジメント	2		2			
	Introduction to Global Management	3		2			
	経営管理総論	2		2			
	人事労務管理論	2		2			
金融論	2		2				
起業マネジメント論	3		2				
国際経営論	3		2				
中小企業論	3		2				
地域振興論	2		2				
国際経済学	2		2				
ミクロ経済学	3		2				
マクロ経済学	3		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	財政学	3		2		28単位	<p>専門科目群 I のうち、28 単位以上を修得すること。</p> <p>* の科目（体づくり運動，器械運動，陸上競技，サッカー，バスケットボール，バレーボール，ソフトボール，柔道，スキー，運動学）は，原則，教職課程（保健体育）に登録している者のみ履修できる。</p> <p>** の科目（ダンス，水泳）は，原則，教職課程（保健体育）に登録している者と健康運動実践指導者資格取得希望者のみ履修できる。</p> <p>*および**印の科目は，オリエンテーション期間に行われる教職課程説明会で示されるクラス分けに従い，履修登録すること。</p>
	国際法	3		2			
	地域生態系保全論	2		2			
	体づくり運動*	2		1			
	器械運動*	2		1			
	陸上競技*	2		1			
	水泳**	2		1			
	サッカー*	2		1			
	バスケットボール*	2		1			
	バレーボール*	2		1			
	ソフトボール*	2		1			
	柔道*	2		1			
	ダンス**	2		1			
	スキー*	2		1			
	運動学（運動方法学を含む）*	2		2			
	体育史	2		2			
	スポーツ心理学	2		2			
	運動生理学	2		2			
	解剖生理学	2		2			
	スポーツ栄養学	2		2			
	救急処置（実習を含む）	2		2			
	スポーツ経営学	2		2			
	スポーツアロマセラピー	2		2			
	体力トレーニング実習	3		1			
スポーツ医学	3		2				
健康運動指導法（実習を含む）	3		2				
衛生・公衆衛生学	3		2				
学校保健学	3		2				
スポーツと地域振興	3		2				
地域スポーツマネジメント論 I	3		2				
地域スポーツマネジメント論 II	3		1				

専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群Ⅱ (ゼミ研究・実践)	ゼミナールA	3		2		8単位	専門科目群Ⅱのうち、必修科目6単位を含み8単位以上を修得すること。 ゼミナールA・Eのいずれか1科目2単位を修得すること。 ゼミナールA・B・C・D・Eは、同じクォーターに2つ以上の科目を同時に履修することはできない。 *の科目は指定された学生のみ履修できる。
	ゼミナールB	3	2				
	ゼミナールC	3	2				
	ゼミナールD	3	2				
	ゼミナールE*	3		2			
	プロジェクト研究A	1		2			
	プロジェクト研究B	1		2			

専門科目群Ⅲ（教職関連）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群Ⅲ (教職関連)	教職論	1			2	専門科目群Ⅲ（教職関連）は、教職課程に登録している者のみ履修することができ、修得単位は卒業要件単位数に含まれない。ただし、4年次に教育実習受講要件を満たす者は、各教科教育法の修得単位を卒業要件単位数に含むことができる。なお、各教科教育法とは*の科目を指す。 ※教職課程に登録している者とは、教職課程登録カードを教務課に提出し、定められた期日までに登録費及び課程費を納めた者をいう。	
	教育課程論	1			2		
	道徳教育の理論と方法	1			2		
	教育原理	2			2		
	教育心理学	2			2		
	教育制度	2			2		
	特別活動論	2			2		
	生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）	2			2		
	特別のニーズ教育論	2			2		
	総合的な学習の時間の指導法	2			2		
	教育方法論（ICT活用を含む）	2			2		
	教育相談（カウンセリングを含む）	3			2		
	介護等体験	3			2		
	教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）	4			3		
	教育実習Ⅱ	4			2		
	教職実践演習（中・高）	4			2		
	保健体育科教育法Ⅰ*	3			2		
	保健体育科教育法Ⅱ*	3			2		
保健体育科教育法Ⅲ*	3			2			
保健体育科教育法Ⅳ*	4			2			